

旭労災病院ニュース

病院情報誌

第 139 号

平成 29 年 6 月 1 日発行

発行所 : 旭労災病院

〒4888885

尾張旭市平字甲北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

脳神経外科が常勤になりました

脳神経外科部長 丹羽 裕史



旭労災病院連携医の先生方には、平素より患者さんをご紹介いただきまして、誠にありがとうございます。ございます。

本年、2月より、常勤で勤務しています。

現在、平日の月曜から金曜までの午前中に外来を行っています。私が赴任する以前には、外来を週2回の代務で行っていたので、すでに通院中の患者さんがおられます。長年にわたり経過を見ている未破裂脳動脈瘤の方や、脳梗塞後に再発予防のため抗血小板剤の処方が必要な方、片頭痛の方、脳挫傷後のてんかんの方などに通院していただいております。

現在、病診連携では1-3名/週位のペースでご紹介をいただいております。

脳神経「外科」ですが、常勤一人体制ですので、手術治療は手控えています。手術が必要な患者さんは、大学病院など、救急対応が可能な高次医療機関にお願いしています。今のところ1-2名/月の紹介を行いました。これまでに、急性硬膜下血腫の方2例、椎骨動脈解離の方1名を救急車にて転送しました。小児の橋神経膠腫の方と、80歳台の転移性脳腫瘍の方は、受診手続きを取ってご紹介させていただきました。転移性脳腫瘍の方は穿頭手術+ガンマナイフ治療をしていただいたのち、当院でリハビリ治療を行いました。

手術治療となる可能性が低いと見込まれる、頭部外傷、脳震盪などの方は当院にて入院治療しています。脳出血では視床出血の方と、小脳出血の方を入院治療させていただきました。

実際には、入院患者さんとしては、手術適応がない脳梗塞の方がほとんどです。増悪リスクを鑑みて、2週間までの点滴治療を行い、リハビリテーションを行っています。病状によっては嚥下評価、経口摂取訓練も行っています。さらに、回復期リハビリテーションへの転院や、在宅へ戻られる方にはケアマネージャーなどと連携して生活の安全が確保できるよう橋渡しを行っています。

2月後半から入院診療を行い、5月半ばまでの3か月ほどで、20人の患者さんが退院されました。

守備範囲の狭い診療体制ではありますが、ご利用いただけましたら幸いに存じます。

職業性肺疾患

健診部部长 横山 多佳子



呼吸器は外の世界と直接つながっている臓器で、職場環境を含め外の影響を強く受ける器官です。そのため、多くの職業性肺疾患が知られています。

当院にも多くの患者様がみえる結晶性遊離珪酸(シリカ)の吸入により肺におこるじん肺は、日本でも 1800 年代より認められています。現在、わが国でも一度は減少がみられた粉じん作業労働者数は再び増加しており、じん肺健康診断受診労働者数も増加してきています。じん肺の診断の有所見者数率は 2014 年には 0.9%と低下しています。しかし、いまだに粉じん作業労働者の 1%前後がじん肺症を発症していることになり、さらに粉じん職場での予防が勧められています。

また、石綿が関連する疾患としては、中皮腫や肺癌などの悪性疾患の他に、良性石綿胸水やびまん性胸膜肥厚など多様な疾患があります。しかし、40 年以上の潜伏期間で進行するものもありこれらの要因が石綿ばく露によることの証明が難しく、労災補償や環境省の救済法などによる支援を受けられないままの症例もあると考えられています。

最近珪酸や石綿以外にも粉じんにより起こる肺疾患があります。超硬合金肺はタングステンやコバルトの吸入によって過敏性肺炎や肺の線維化を起こします。インジウム・スズ酸化物等を製造する労働者に間質性肺炎がおこったことで知られたインジウム肺などがあります。

喘息の中にも、職場の抗原により発症した喘息(感作物質誘発職業性喘息)や職場で刺激物を多量に吸入したためにおこる喘息(刺激物質誘発性職業喘息)などがあります。職歴と喘息に関する詳細な問診を取ることやピークフローメーターを毎日測定することで休日や長期休暇に改善することなどを確認することが、職業性喘息を考えるきっかけになります。

職業に関連する症状でお困りなことがありましたら、また当院にいつでもご連絡いただければ幸いです。

参考文献；職業性アレルギー疾患ガイドライン 2016，職業性アレルギー疾患診療ガイドライン 2016 作成委員会

How to 産業保健 11 よくわかる じん肺健康診断 産業医学振興財団 2017